草津川跡地公園(区間2)

植栽管理マニュアル

令和7年7月

目次

1. 植栽管理の基本方針.....	1
1.1. 植栽管理マニュアルの目的.....	1
1.2. 植栽管理の基本方針.....	1
2. 共通事項.....	2
2.1. 高木・中木管理.....	2
2.2. 低木管理.....	5
2.3. 地被類(常緑性・落葉性)・球根類管理.....	7
2.4. 芝生管理.....	9
2.5. 草地管理.....	12
3. 年間管理作業回数のおとめ.....	14
4. 参考資料.....	15
4.1. 資料ー1 年間作業時期の目安.....	15
4.2. 資料ー2 樹種別剪定方法.....	18
4.3. 資料ー3 花芽分化期.....	22
4.4. 資料ー4 草刈り頻度と草地のイメージ.....	23

1. 植栽管理の基本方針

1.1. 植栽管理マニュアルの目的

当植栽管理マニュアルは、多彩なガーデンを創り、また、将来に渡って美しい状態を保つことを目的として作成する。従って、適宜、内容を確認し、必要に応じて更新を行うものとする。

【管理】

指定管理者は、当マニュアルに基づき植物管理を行う。

マニュアルは、概ね四半期ごとに実施するウォークスルー（センサリーツアー）等の内容や作業実績を踏まえて定期的には協議を実施し、必要に応じて更新し、常に最新のマニュアルに基づき多彩なガーデンの維持に努めるものとする。

1.2. 植栽管理の基本方針

①ナチュラルガーデンの演出

日本独特の感性のあるナチュラルガーデンの演出を実現するため、自然樹形による育成、適地適品種を基本とする。高中木の育成管理を図るとともに低木、地被類は施設の利用形態に沿った景観づくりを目指す。

②メリハリある緑空間の育成

管理の省力化と高質な緑を両立するため、ガーデンごとの管理方針に基づき、特性や人の動線・利用形態等を意識し、管理内容に変化をつけたメリハリある緑空間の育成を目指す。

□植物の生育状況に応じて、間引きや株分け、移植や新植を行う。

□植栽地が裸地化、雑草化した箇所は、その原因を究明したうえで適切な植物を新植し全体の調和を図る。

共通事項

管理作業内容として、基本的に全てのゾーンに共通する事項を本章に記す。

※年間作業スケジュールについては、別紙資料-1 を目安とする。

1.3. 高木・中木管理

【剪定】

□方針

自然樹形を目標とするため、剪定は不要枝を剪定する程度の必要最小限とする。

□作業の基本

樹形を乱す不要な枝、込み枝、病虫害・日照状態等による虚弱枝を剪定し、枝抜き剪定を基本として樹種に応じた自然樹形を維持する。

※樹種別の剪定方法の詳細については、別紙資料-2 を参照のこと。

□頻度の目安

基本的には年 1 回までとし、下記時期のいずれかに行う。ただし、剪定が必要と思われるときは、時期に関係なく実施する。

□時期(一般的目安)

常緑樹:5～6 月頃(枝透かし・軽剪定)

9～10 月頃(基本剪定)

落葉樹:7～8 月頃(枝透かし・軽剪定)

11～2 月頃(基本剪定)

※花木は各樹種の花芽分化期(花芽がつくられる時期)に注意し、花芽を切り落とさないようにする。樹種別の花芽分化期については、別紙資料-3 を参照のこと。

【病虫害防除】

基本的に予防のための薬剤散布は行わないが、毎年発生する病虫害に対しては、予防のための薬剤散布を実施し、発生を抑える。日頃から剪定による通風や日照の確保に留意し、植物自体の健全な育成に努める。

病虫害の発症・発生を確認した場合は状況に応じて、発生した枝葉の切除、薬剤散布など適切な方法で速やかに対処する。虫害については、軽度なものは補殺にて対応する。

【施肥】

□方針

施肥は多すぎれば濃度障害を起こす危険性があるため、基本的には遣りすぎないように控えめに行う。堆肥等の有機質肥料を積極的に利用し、地力向上を目指す。

□作業の基本

株元から少し離れた場所に、樹木を囲うように肥料を埋め込む。この時、根に直接肥料が当たらないよう注意する。

□頻度

表 2-1 整備目標の標準管理を基本とし、植物の状態を見ながら必要に応じて高度管理を適用する。また、樹勢の弱った樹木は原因を究明し、結果、肥料が必要であれば、適宜施肥を行う。

表 2-1 日常的な施肥管理の必要性と頻度

整備目標	植 物	日常的な施肥の必要性（施肥間隔）
標 準	緑 化 樹	ほぼ不要
	花木・果樹	ほぼ不要（ただし土壌養分が少ない土壌の場合は数年に1回の施肥が望ましい）
	芝や地被	芝生地は年1回程度、地被類は数年に1回程度
	草花（花壇）	植え替えする草花については植栽時、宿根草は原則年1回程度
高 度	緑 化 樹	2～3年に1回程度（葉色等を判断しながら）
	花木・果樹	花木は数年に1回、果樹は毎年収穫後
	芝や地被	芝は年2回以上、地被は毎年1回
	草花（花壇）	植栽時とは別に年1回以上、宿根草は年2回（寒肥と追肥）程度

* 上記は、根系の伸長阻害要因（限られた有効土層範囲・土壌固結・粗砂等の極度な貧栄養状態等）がない場合であり、それら阻害要因がある場合は吸収根の少なさを補うために施肥が望まれる場合が生じる。

出典：『植栽基盤整備技術マニュアル』国土交通省監修、一般社団法人日本緑化センター、H25

□種類、時期

施肥の種類、時期については表 2-2 を参照し、樹種・植物の状態に合わせて選択する。

表 2-2 施肥の区分とその概要

用 語	概 要
基肥*（元肥）	原則として、初期生育や活着促進のため、植栽（植付）時と同時又は直前に植物体の近くに与える肥料。 高度な配慮がされる場合は、活着促進や短期的な初期生育のための速効性肥料と、1～3年程度の生育促進のための緩効性肥料等数種を組み合わせるが、1種のみ利用する場合は緩効性肥料を用いる。
追 肥	植物の生育に伴って必要養分を補うために、基肥のあとに生育期間中に与える肥料。速効性肥料を用いることが一般的。
お 礼 肥	花や実がなったことによる養分不足を補うために、開花結実期の最中あるいはその後に与える肥料。 多少の速効性と遅効性を兼ねた有機質肥料（油カスや骨粉等）のような肥料を用いることが一般的。
寒 肥	冬期の植物の休眠期に与えて春からの吸収期にそなえるための肥料（原則として積雪寒冷地以外の習慣）。 春の温度上昇に伴って肥料成分量が増加する有機質肥料を用いることが一般的。

* 「もとごえ」と呼ぶことが一般的であるが、稀に「きごえ」と呼ぶこともある。

出典：『植栽基盤整備技術マニュアル』国土交通省監修、一般社団法人日本緑化センター、H25

【除草・枯葉】

除草は、雑草の繁殖・生長が目立ち始めてからの除去が良いが、見つけ次第なるべく早めに除去することが望ましい。

枯葉については、地面に落葉後集積し場外処分を基本とする。堆肥化は積極的に区間2の堆肥ヤードを活用して実施する。

チップ材やバーク等を積極的に活用して植栽地内にマルチングを施し、雑草の防止と景観の向上を図る。

【灌水】

□点検頻度、作業の基本

土壌水分量不足による植栽への影響は、高木・中木よりも先に地被類に現れることが多いため、地被類の点検の際、葉のしおれ等を確認する。葉のしおれ等が見られた場合は、適宜必要な灌水を行う。

南側自歩道沿いのヤマザクラの街路樹は、暑さと風により土壌が非常に乾燥して水不足状態となる為、特に夏季の水不足には注意する。

1.4. 低木管理

【剪定】

□方針

植栽エリアの状況と景観を考慮して剪定する。

□作業の基本

樹種と植栽エリアに応じて剪定する

間引きや強剪定が必要な樹種は、その状況に応じて行う。

※樹種別の剪定方法の詳細については、別紙資料-2を参照のこと。

□時期(一般的目安)

常緑樹:5～6月頃(枝透かし・軽剪定)

9～10月頃(基本剪定)

落葉樹:7～8月頃(枝透かし・軽剪定)

11～2月頃(基本剪定)

※花木は各樹種の花芽分化期(花芽がつくられる時期)に注意し、花芽を切り落とさないようにする。樹種別の花芽分化期については、別紙資料-3を参照のこと。

【病虫害防除】

基本的に予防のための薬剤散布は行わないが、毎年発生する病虫害に対しては、予防のための薬剤散布を実施し、発生を抑える。日頃から剪定による通風や日照の確保に留意し、植物自体の健全な育成に努める。

病虫害の発症・発生を確認した場合は、状況に応じて発生した枝葉の切除、薬剤散布など適切な方法で速やかに対処する。虫害については、軽度なものは補殺にて対応する。

【施肥】

□方針

施肥は多すぎれば濃度障害を起こす危険性があるため、基本的には遣りすぎないように控えめに行う。堆肥等の有機質肥料を積極的に利用し、地力向上を目指す。

□作業の基本

株元から少し離れた場所に、樹木を囲うように肥料を埋め込む。この時、根に直接肥料が当たらないよう注意する。

群植や大規模な寄せ植えの場合は一定の間隔で穴を掘り埋め込むか、植栽地内に均一に散布する。散布時に肥料が枝葉に付着したままにならないよう留意する。

□頻度

表 2-1 整備目標の標準管理を基本とし、植物の状態を見ながら必要に応じて高度管理を適用する。また、樹勢の弱った樹木は原因を究明し、結果、肥料が必要であれば、適宜施肥を行う。

□種類、時期

施肥の種類、時期については表 2-2 を参照し、樹種・植物の状態に合わせて選択する。

【除草・枯葉】

除草は、雑草の繁殖・生長が目立ち始めてからの除去が良いが、見つけ次第なるべく早めに除去することが望ましい。

枯葉については、地面に落葉後集積し場外処分を基本とする。堆肥化は積極的に区間2の堆肥ヤードを活用して実施する。

チップ材やバーク等を積極的に活用して植栽地内にマルチングを施し、雑草化の防止と景観の向上を図る。

【灌水】

□点検頻度、作業の基本

土壌水分量不足による植栽への影響は、低木よりも先に地被類に現れることが多いため、地被類の点検の際、葉のしおれ等を確認する。葉のしおれ等が見られた場合は、適宜必要な灌水を行う。

【植替え】

□方針

株が衰退した場合は、管理方法を含め原因を究明する。管理方法を変更して養生管理を実施しても回復しない場合は、土地環境に合わない可能性があるため、目標景観に沿う別種へ植替えても良い。

また、各植物が成長しすぎて剪定による対応が難しくなった場合(強剪定を必要とする等)は、間引きを行う。

□作業の基本

植え付けの際は植物の根園土壌を全て入れ替える程度の大きさ(根鉢の3倍から4倍)の植穴に新しい真砂土と土壌改良剤、基肥を混入し丁寧に植えつけ、高植え・深植えにならないよう留意する。

植え付けた後は十分に灌水を行い、株元までマルチングを敷き均す。

1.5. 地被類(常緑性・落葉性)・球根類管理

【灌水】

□点検頻度、作業の基本

植栽場所の環境や樹種、生育状況等によって水分要求量が異なるため、定期的に点検を行い、乾き具合を見て必要な灌水を行う。

夏期や乾燥が気になる時期に留意し、適宜灌水を行う。

夏期:ほぼ毎日点検。

直射日光を避けた早朝又は地温が下がりだす夕方に、根に水が届くようたっぷり。日差しの強い日、日差しのきつい場所は特に注意する。

春・秋期:週に2、3回程度点検。

朝、土がしっとり潤う程度に。土の表面が乾いてから遣るようにする。

冬期:週に1回程度点検。

気温の上がり始める午前中に、土がしっとり潤う程度に。土の表面が乾いてから遣るようにする。

※降雨の日は、灌水の必要はない。雨の上がった後、土の表面が乾いてから、上記の灌水方法を再開する。但し、降雨があっても十分な量に満たない場合は補完する。

※植物がしおれている場合は直ちに十分な灌水を行う。

※開花中の花苗は、水の勢い・泥はねに弱いものもあるため、ホースの先に散水ノズルを取り付け、花苗を傷めないよう優しく行う。

【施肥】

□方針

施肥は多すぎれば濃度障害を起こす危険性があるため、基本的には遣りすぎないように控えるに行う。堆肥等の有機質肥料を積極的に利用し、地力向上を目指す。

□作業の基本

植栽地内に均一に散布する。散布時に肥料が枝葉に付着したままにならないよう留意する。

□頻度

表 2-1 整備目標の標準管理を基本とし、植物の状態を見ながら必要に応じて高度管理を適用する。また、樹勢の弱った株は原因を究明し、結果、肥料が必要であれば、適宜施肥を行う。

□種類、時期

施肥の種類、時期については表 2-2 を参照し、樹種・植物の状態に合わせて選択する。

【除草】

定期的に点検を行い、雑草が大きく生長しないうちに、根元から抜き取る。

春の雑草(5月下旬～6月)、秋の雑草(10月下旬～11月頃)が種子を散布しないよう、特に留意する。

【マルチング】

チップ材やバーク等を積極的に活用して植栽地内にマルチングを施し、雑草化の防止と景観の向上を図る。

【病虫害防除】

基本的に予防のための薬剤散布は行わないが、毎年発生する病虫害に対しては、予防のための薬剤散布を実施し、発生を抑える。日頃から通風や日照の確保に留意し、植物自体の健全な育成に努める。

病虫害の発症・発生を確認した場合は、状況に応じて発生した枝葉の切除、薬剤散布など適切な方法で速やかに対処する。虫害については、軽度なものは補殺にて対応する。

【植替え】

□方針

株が衰退した場合は、管理方法を含め原因を究明する。管理方法を変更して養生管理を実施しても回復しない場合は土地環境に合わない可能性があるため、目標景観に沿う別種へ植替えても良い。

各植物が成長しすぎた場合・増えすぎた場合は、間引き・株分けを行う。

古株となり樹勢が衰えてきた場合は、できる限り株分け等により更新するよう努める。

□作業の基本

植え付けの際は土壌改良剤、基肥を混入し土を十分に耕す。根鉢の大きさに合わせた植穴に丁寧に植えつけ、高植え・深植えにならないよう留意する。

植え付けた後は十分に灌水を行い、株元までマルチングを敷き均す。

【花がら摘み等】

□花がら摘み

美観向上、結実による株の消耗防止、病害予防等の観点から、咲き終わった花がらは順次摘み取る。摘み取る際は、基本的に花茎の根元から除去する。

□摘心

適宜摘心を行い、徒長を防ぎ脇芽の数を増やすことで草姿を整え、花数を増やす。

□切り戻し

草姿の乱れを回復したり、風通しを良くすることで夏越しを容易にするため、適宜切り戻しを行う。

□刈り取り

冬に枯れた落葉性の地被類は、見苦しい場合は一定の高さで刈り取るか枯葉を除去する。球根類の葉は、花後も養分の蓄えに必要なため枯れるまでは残しておく。

1.6. 芝生管理

※区間2（広場2-3）（約7,500㎡）は芝生ではないが、芝生管理と同様の管理を行う。

□方針

ガーデン部の張芝、種子吹付部に適用し、下記の表Bランクの水準を管理目標として作業を行う。

国営公園における標準的な芝生管理のランク分け

芝型（暖地型） 種類（コウライシバ、ノシバ）				
ランク	A	B	C	B'
修景性	高い	普通	低い	普通
芝生地の評価	主要な広場や施設まわりなどで修景性が高く、芝生の美しさが重要な景観構成要素となり、良好に管理すべき芝生地	広場や施設まわりなどのうち修景性が中程度で、芝生の緑が一景観構成要素となり、良好に管理すべき芝生地	主として法面など土壌保全あるいは、草地化を目的とした芝生地で、緑を保持するための最小限の管理を行う芝生地	Bにランクされる芝生地であるが、予算の制約上、管理水準を下げ単一草種を維持する最低限度の管理を行う芝生地
管理目標（維持すべき芝生の状態 = 品質）				
・均一性（刈込高） （芝高）	2~3 cm 5 cm 以下	3 cm 7 cm 以下	4~5 cm 10 cm 以下	2~3 cm 5 cm 以下
・芝の単一性（雑草混入度）	単一草種の維持、雑草混入を許さず	単一草種の維持、可能な限り雑草混入を認めない	雑草混入容認	単一草種の維持目標、一部雑草混入を容認
・被度（非裸地率）	100%の維持をめざす	90%以上の維持をめざす	90%以上の維持をめざす	90%以上の維持をめざす
・茎葉の密生度	茎葉が密生し、空隙が少ない	茎葉は密生するが、一部空隙あり	密生度が低く、空隙がかなり目立つ	茎葉は密生するが、一部空隙あり
管理作業項目・回数				
・芝刈り	7~10回/年	4~6回/年	3~4回/年	1~3回/年(集草あり) 6~8回/年(集草なし)
・施肥(N量)	2~3回 (15~20g/年)	1~2回 (10~15g/年)	0~1回 (0~10g/年)	1回 (10~15g/年)
・人力除草	4~6回/年	1~3回/年	0~1回/年	0~2回/年
・目土掛け	1~2回/年	0~1回/年	—	0~1回/年
・エアレーション	1~2回/年	0~1回/年	—	0~1回/年
・病虫害防除	適宜	適宜	適宜	適宜
・灌水	適宜	適宜	適宜	適宜
・補植	適宜	適宜	適宜	適宜

（出典）建設省近畿地方建設局，（財）公園緑地管理財団：「公園管理基準調査報告書」（1989.3）改変

出典：『改訂4版 公園・緑地の維持管理と積算』財団法人経済調査会

【芝刈り】

□時期、頻度

概ね4~10月の間に4~6回/年程度。

□作業の基本

基本的には機械刈りによる。小面積で機械を使用し難い個所、樹木等の根際や植え込みと接する個所、ベンチ・園路等の施設と接する個所等は手刈りにより丁寧に行う。

樹木の幹まわりの芝生は必ず手刈りをする事。

【病虫害防除】

基本的に予防のための薬剤散布は行わないが、毎年発生する病虫害に対しては、予防のための薬剤散布を実施し、発生を抑える。予防処置としては、窒素過多に留意した施肥管理、良好な通気性や排水性の確保、極端な深刈りや自然状態を避けること等を心がけ、通常の芝生管理を適切に行うことで抵抗力のある芝生の育成を目指す。

病虫害の発症・発生を確認した場合は、状況に応じて発生した部分の切除、薬剤散布など適切な方法で速やかに対処する。虫害については、軽度なものは補殺にて対応する。

【施肥】

□時期、頻度

概ね2～9月の間に1～2回/年程度。芝生の色を見ながら調整する。

□作業の基本

所定の施用量を芝生面にムラのないよう均一に散布する。

【灌水】

□点検頻度、作業の基本

植栽場所の環境等によって水分要求量が異なるため、定期的に点検を行い、乾き具合を見て必要な灌水を行う。

しっかりと根付くまでは、ほぼ毎日点検し土の表面が乾いたら朝方十分に灌水する。

根付いた以降は、下記の灌水方法を続ける。夏期や乾燥が気になる時期を気に掛け、水切れの症状が出始めたら適宜灌水を行う。

夏期：ほぼ毎日点検。

直射日光を避けた早朝に、根に水が届くようたっぷりと。日差しの強い日、日差しのきつい場所は特に注意する。

春・秋期：週に2、3回程度点検。

朝、土がしっとりと潤う程度に。土の表面が乾いてから遣るようにする。

冬期：週に1回程度点検。

基本的に灌水は行わない。

※降雨の日は、灌水の必要はない。雨の上がった後、土の表面が乾いてから、上記の灌水方法を再開する。但し、降雨があっても十分な量に満たない場合は補完する。

【除草】

定期的に点検を行い、雑草が大きく生長しないうちに、根元から抜き取る。

春の雑草(5月下旬～6月)、秋の雑草(10月下旬～11月頃)が種子を散布しないよう、特に留意する。

【目土掛け】

□時期、頻度

概ね2年に1回程度。(3～6月の間)

芝刈りやエアレーションの直後に行うと効果的である。

□作業の基本

目土は原則として床土と同質のものをを用い、必要に応じて真砂土を用いたり、砂や土壌改良剤を混合する。植物の根茎やガレキなどは取り除き(必要に応じてふるい分け)、改良材等を入れる際は入念に混合する。

目土の深さは、芝生の成長点を覆う程度(5～10mm程度)とする。

トンボ等を用いてムラなく均一にすり込む。

【エアレーション】

□時期、頻度

概ね2年に1回程度。(3～4月の間)

□作業の基本

人力(フォーク、スパイク等)又は機械による。

【補植・更新】

□方針

芝生が衰退した場合は、管理方法を含め原因を究明する。管理方法を変更して養生管理を実施しても回復しない場合は枯損した部分を切り取り、障害の原因を取り除いた上で新しい芝生に張り替える。

土地環境に合わない場合は、別種への植替えを検討する。

□作業の基本

植付けの時期は4～6月、9～10月が適する。植え付けの際は土壌改良剤、基肥を混入し、深さ15～20cm程度まで十分に耕す。

植え付けた後は十分に灌水を行い、根付くまで養生する。

1.7. 草地管理

□方針

公園側の法面種子吹付部に適用する。野生草本の侵入を許容し、高茎草地へ誘導する。

【除草】

定期的に点検を行い、雑草が大きく生長しないうちに、根元から抜き取る。

春の雑草(5月下旬～6月)、秋の雑草(10月下旬～11月頃)が種子を散布しないよう、特に留意する。

【草刈り】

・春(5月下旬～6月)と秋(10月下旬～11月)の4回/年とする。

・高茎草地へ誘導するため、雑草の刈高は5～10cm程度とする。

※草刈り頻度別の草地イメージについては、別紙資料-5を参照のこと。

【灌水】

活着するまでは表面が乾かないよう十分な灌水を行い養生する。活着後は、水切れの様子が見られた場合は灌水する。

【病虫害防除】

基本的に予防のための薬剤散布は行わない。病虫害の発症・発生を確認した場合は、状況に応じて発生した部分の切除、薬剤散布など適切な方法で速やかに対処する。虫害については、軽度なものは補殺にて対応する。

【施肥】

基本的に施肥は行わない。肥料不足による生育不良が見られた場合は、所定の施用量を芝生面にムラのないよう均一に散布する。

1.8. 法面管理

□方針

民地側法面部の張芝、チガヤ草地に適用する。野生草本の侵入を許容し、高茎草地へ誘導する。

【除草】

定期的に点検を行い、雑草が大きく生長しないうちに、根元から抜き取る。

春の雑草(5月下旬～6月)、秋の雑草(10月下旬～11月頃)が種子を散布しないよう、特に留意する。

【草刈り】

・張芝:4回/年(5～10月頃)

・チガヤ:4回/年(5月下旬～6月、10月下旬～11月頃)

※草刈り頻度別の草地イメージについては、別紙資料-5を参照のこと。

【灌水】

基本的には無灌水とする。

2. 年間管理作業回数のおとめ

	区間2	
	回数	摘要
高中木管理		約290本(高木270本、中木20本)
剪定	1.0	全体景観を意識して自然樹形を基本とした剪定とする。
施肥	適宜	基本は不要。必要に応じて2~3年に1回。
病虫害防除	適宜	剪定防除を基本。薬剂散布は控える。
枯損木処理	適宜	
支柱管理	適宜	
灌水	適宜	夏場の早魃時は、基本的には手撒き灌水。
低木管理		約3,900株
剪定	1.0	施設の状態に応じた剪定とする。
施肥	適宜	基本は不要。必要に応じて2~3年に1回。
病虫害防除	適宜	剪定防除を基本。薬剂散布は控える。
枯損木処理	適宜	点検時に随時対応。
人力除草	適宜	点検時に随時対応。春雑草・秋雑草の種子散布時には要注意。
灌水	適宜	夏場の早魃時は、基本的には手撒き灌水。他の季節は必要に応じて手撒き灌水。
地被類管理		約1,500㎡(約19,000株)
剪定	1.0	成長の旺盛な植物は早期の株分けを行う。
施肥	適宜	地被は基本不要。必要に応じて年に1回。
病虫害防除	適宜	宿根草は年に1回を標準。必要に応じて年2回。
枯損木処理	適宜	剪定防除を基本。薬剂散布は控える。
人力除草	適宜	点検時に随時対応。春雑草・秋雑草の種子散布時には要注意。
灌水	適宜	夏場の早魃時は、基本的には手撒き灌水。他の季節は必要に応じて手撒き灌水。高中木・低木より点検を慎重に行う。
芝生管理		区間2では芝生はないが、広場2-3(多目的広場:約7,500㎡)については、芝生管理と同様の管理を行う。
人力除草	1.0	点検時に随時対応。春雑草・秋雑草の種子散布時には要注意。年に1回は全面除草。
刈込	4~6	4月~10月の間に4~6回。
病虫害防除	適宜	発生時に対応。
目土入れ	0.5	2年に1回。
エアレーション	0.5	2年に1回。
施肥	1.5	年に1~2回程度。
灌水	適宜	夏場の早魃時は、基本的には手撒き灌水。他の季節は必要に応じて手撒き灌水。
草地管理		
草地管理(1)		種子吹きつけ(約4,500㎡)
人力除草	適宜	点検時に随時対応。春雑草・秋雑草の種子散布時には要注意。
施肥	適宜	
刈込	4.0	春雑草・秋雑草の種子散布前に実施。刈取り後は搬出処分。
灌水	適宜	夏場の早魃時は、基本的には手撒き灌水。
病虫害防除	適宜	発生時に対応。
草地管理(2)		民間商業施設2-1(約4,200㎡) 2-3(約10,500㎡)
人力除草	適宜	点検時に随時対応。
刈込	4.0	刈取り後は搬出処分。
法面管理		左岸側法面(約6,100㎡)
人力除草	適宜	点検時に随時対応。春雑草・秋雑草の種子散布時には要注意。
刈込	4.0	春雑草・秋雑草の種子散布前、クズ等に注意。刈取り後は搬出処分。
灌水	無し	
夏季灌水業務		—
植栽剪定くず処分	適宜	
植物管理資材購入	適宜	

3. 参考資料

3.1. 資料－1 年間作業時期の目安

植栽維持管理年間作業計画表

対象	管理作業	管理地	作業時期(月)												摘要	
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
樹木管理	常緑樹剪定			■	■	■			■	■	■	---				花木は花芽形成前に剪定
	落葉樹剪定	積雪地					■	■	■			■	■	■	■	
	刈込み	寒地		■	■	■	■	■	■	■	■	■				
	施肥	積雪地			■								■	■	■	花後のお礼肥については、適宜、花の咲いた後に行う
	病虫害防止			■	■	■	■	■	■	■			(カイガラムシ)	■	■	薬剤散布
	除草	寒地 暖地	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	灌水	寒地 暖地				■	■	■	■	■						諸条件により回数の決定は難しい
	幹巻き			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	日焼保護 凍寒保護
	布巻き		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	耐寒性に弱い樹木に対して行う
	霜除け		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	〃
	コモ巻き(冬期害虫捕殺)									■	■	■	■	■	■	(撤去) (撤去)
	雪吊り	積雪地	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	(撤去)
	倒木復旧															台風による倒木、半倒木
	枯損木の処理															適宜
	支柱の補修・更新	積雪地	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	適宜 積雪地では雪どけ後の損傷に対して行う
	倒木起し															
補植・更新	寒地 積雪地	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	常緑広葉樹は6~7月が最適、針葉樹のヒノキ科は3月が最適。根がよければ1年中可能	
樹林管理	間伐															
	除伐・ つる切り		---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	除伐は1年中

対象	管理作業	管理地	作業時期(月)													摘要
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
樹林管理	枝打ち		[作業時期: 8月~3月]													
	下刈り		[作業時期: 4月~10月]													
	補植	寒地 積雪地	[作業時期: 4月~11月]													
芝生管理	刈込み	暖地 寒地	[作業時期: 4月~11月]													単一種の芝地を形成される必要がない場合には、最低刈込回数を3回とする
	施肥	積雪地	[作業時期: 4月~10月]													
	目土かけ	積雪地	[作業時期: 4月~5月]													
	病虫害防除		[作業時期: 4月~10月]													殺菌剤, 殺虫剤
	エアレーション		[作業時期: 2月~3月]													締固め程度によって異なるが、一般に1回
	除草	寒地 暖地	[作業時期: 4月~11月]													
	灌水	暖地	[作業時期: 7月~9月]													
	更新・補植	寒地	[作業時期: 4月~5月]													
	草花管理	植付け	寒地	[作業時期: 4月~11月]												
灌水			[作業時期: 4月~11月]													露地は適宜行う
施肥			[作業時期: 12月~2月]													1,2月は元肥, ほかの月は、植付け前に適宜行う
病虫害防除			[作業時期: 4月~10月]													適宜行う
除草			[作業時期: 4月~10月]													除草は植替えの間に1回程度
中耕			[作業時期: 12月~2月]													中耕 適宜行う
摘心・摘花			[作業時期: 4月~11月]													
球根の掘上げ			[作業時期: 4月~11月]													
法面緑化	施肥		[作業時期: 4月~11月]													

対象	管理作業	管理地	作業時期(月)													摘要	
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
法面緑化管理	法面草刈り		-----	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————							
	病虫害防除			—————	—————	—————	—————	—————	—————	-----			(カイガラムシ)	—————	—————		
	灌水	暖地				—————	—————	—————	—————								
	法面補修																必要に応じて行う

出典:『緑化・植栽マニュアル』中島宏、財団法人経済調査会、H19

3.2. 資料－2 樹種別剪定方法

主な樹木の整姿剪定

(1) 針葉樹類 (15 種類)

樹 種	整 姿 剪 定
アカマツ	春に「みどり摘み」といって、新芽の3～9cm ぐらい伸びた頃に、強いものは芽先を1/2、弱いものは1/3 ぐらい摘み取る 秋には枯葉はもちろん、ふところ枝を育てるようにむだ枝や伸ばす目的以外のミツ(1カ所から3本でた真中の小枝を間引くことをみつ割りあるいははさみ割りという)を切り、「もみあげ」といって古葉を摘み取って内部に日があたるようにして、姿を整える
カイヅカイブキ	徒長枝を切り取り、若枝を摘み取って姿を整える程度でよい。若枝を切りっぱなしにしたままでは枯れる
カラマツ	6月頃に枝を切って円錐形または楕円形に姿を整える
キャラボク	伸びすぎた枝を切り取って形を整える程度でよい。イチイはカヤに準じて整姿すればよいがミツは切らない
クロマツ	みどり摘み、もみあげと、はさみ割り程度でよい
ゴヨウマツ	クロマツに準じ、ヒメコマツはアカマツに準じて整姿すればよい
スギ	秋に立枝や下垂した梢の先を切り、横枝は長短変化のある左右均整に枝透かしを行う程度でよい
タギョウシヨウ	みどり摘みで葉並みをそろえ、密生している小枝は3本ほどに間引き、徒長枝、ふところ枝、からみ枝などを取って樹冠を整え、アカマツのようにもみあげを行う
ツガ	クロマツのようにはさみ割り程度でよい。摘葉する必要はない
ドイツトウヒ	カヤに準じて整姿すればよい。梅雨期にミツを切り、左右の枝も1.5cm ぐらいに摘む。胴ぶきは残らず切り、垂れ枝を残し立枝を切って姿を整える。上部に力枝を残すと姿がよくなるといわれる。姿は円錐形、長楕円形にする
ハイビャクシン	梅雨期に枝透かしを行う程度でよい。タマイブキは若枝を摘み取って姿を整える
ヒマラヤスギ	こみあっている枝を6～7月頃適時、間引く程度でよい。裾枝はなるべく残すこと
ヒノキ	からみ枝、立枝等、姿を乱す枝を切り取り、左右均整に近く各段に長短のあるように整枝して姿を整える 枝先は扇形に小透かし(イチョウ透し)を行うか、刈り込む。小透かしは晩秋に両手でもんで枯葉を落としてから行うとよい。葉の粗いものはミツを取らないほうがよい
ラカンマキ	梅雨期と10月頃に枝透かしを行う。クロマツと同じように整姿することもある。生垣は少なくとも年に1回8～9月にかけて行うとよいが、ほかの時期でもよい
ラクウシヨウ	スギ、ヒノキに準じて整姿するが、枯枝を除く程度でもよい

(2) 常緑広葉樹類 (25 種類)

樹 種	整 姿 剪 定
アオキ	梅雨明けに古枝やむだ枝等を切って横枝を出して姿を整える程度でよい
アセビ	4～5月に徒長枝や大枝を切り、5月頃に新しい枝を元葉3枝ほど残して切って姿を整える
アラカシ	姿をつくるための切戻しは4～5月頃がよい。普通には7～8月に剪枝を行い姿を整える。土用後に伸びる芽は掻き取る。生垣は初年は4～5回刈り込んでふところ枝を多くする
ウバメガシ	アラカシに準じて整枝をすればよい
カナメモチ	6～7月と8～9月頃の2回程度刈込みを行って整える
キョウチクトウ	枝を途中から切らないで、枝透かし、幹透かしで混んだところを透かして姿を整える。時期は3～4月
キンモクセイ	4～5月頃に徒長枝、からみ枝等を除く程度でよい ヒイラギモクセイも同じでよい 刈込みは3～4月および10月頃に去年の切り口より少し上で行う
クスノキ	3～4年間放置して、よく茂るようになってから下枝を適当な高さまで剪除すればよい。後はシイノキに準じて整姿をすればよい
クチナシ	早春に古枝を剪除して新梢の発生を促し、晩春に徒長枝を除いて姿を整える程度でよい。コクチナシは7～8月頃にはさみで枝を切って形を整える

樹 種	整 姿 剪 定
サザシカ	冬に古枝、徒長枝、こみ枝、むだ枝等を切り、小枝を5cmぐらい刈り込んで姿を整える。生垣の刈込みは梅雨明けと冬の2回ぐらいでよい
サツキ	花後花を摘み取り、7月頃にむだ枝、こみ枝、車枝、徒長枝等を間引いたり剪除して、適当な大きさに刈り込んで姿を整える
サンゴジュ	春先に徒長枝を抜き、ひこばえを除く。生垣は小透かし程度で姿を保つ
シイノキ	カシに準じて整姿を行うが、粗密のないように徒長枝、ふところ枝、からみ枝等を抜き、枝先は元葉3~5葉残して摘心する。小枝は外へ外へと向けていかにも稲妻が走るがごとく(稲妻透かし)にし、強剪定は避ける
ジンチョウゲ	徒長枝を切り、ふところの小枝を抜いて、枝透かしをする程度でよい。花後直ちに行う
チャノキ	摘心、切戻しは4~5月。刈込みは6月、9~10月に行って姿を整える
ツバキ	枯枝、ふところ枝等を切って姿を整え、小枝は梅雨明け頃に元葉3枚を残して摘み取る
トベラ	徒長枝を除く程度でよい
ナシテン	夏の土用明けに古幹を間引き、途中から出ている枝の先は摘み取る。なお下葉を整理すると美しくなる
ヒイラギナンテン	3月末に枯葉、花後は花穂を取り、7月末に幹の間引を行って姿を整える。この際、丈の高いものは横枝近くで切って低くする
ヒラドツツジ	5~6月頃に枯枝や徒長枝等を除き、摘心、刈込みを行って姿を整える
マサキ	早くから強い剪枝や刈込みを再三行って姿を整える
マメツグ	徒長枝、ふところ枝やひこばえ等を切り、7月と9月末の2回ぐらいに刈り込んで姿を整える。イヌツグも同じでよい
モチノキ	刈込みは7月と9月の2回に行う。ふところ枝、立枝、胴ぶき、からみ枝等を切り透かし、小枝は枝先の3~5葉を残して元葉をとって透かす(稲妻透かし)。反対に密にする場合は小枝を途中から切って芽を出させる
モッコク	モチノキに準じて整姿をするが、枝は水平になるように姿を整え、車枝はそのうち2~3本を残して基部から間引く。秋に枝先をわずかに切るとよいといわれる(イチヨウ透かし)
ヤツデ	幹は間引いて制限し、丈の高いものは梅雨の頃に横枝や芽のあるところから切り戻して低い姿に整える。5~6月頃に古葉を取り花は早く切り、新葉を5~6枚残して下葉を取ると美しくなる

(3) 落葉広葉樹類 (44種類)

樹 種	整 姿 剪 定
アオギリ	最高5cm以上にならないように梢はもちろん、横枝も適当に切り込んで、こじんまりした姿にする。そのためには発芽前か落葉後に太い枝を分れ目から切り、小枝を多く出し、小枝は長さ15~18cm、葉3~4枚ぐらい残すように切ればよい。9月頃に実を切り取る
アカシデ	ケヤキに準じて整姿をすればよい
アジサイ	花後2~3葉残して刈り込み脇芽を出させる。冬に新梢を少し切り込んで徒長を防ぎ、立枝、こみ枝、枯枝等を間引いて姿を整える。小さくする場合、今年咲いた枝を地際から切る
アベリア	徒長枝を除くだけでよい
イチヨウ	2回に1回ぐらい梅雨期に枝先を適当に摘み取り、不要な枝を除く。刈込み物は刈込みを行い、武者立のものは、横枝は葉を3枚残すぐらいに短く切るとよい
ウツギ	古幹は間引いて新幹と更新する。また開花枝は半分程度の長さに切る
ウメ	冬に徒長した立枝の不要のものを切り、小枝の先は1/3ほど切る。太い枝でも自由に切り込むか、自然形になるように姿をつくる。苗を植えた場合は地上30cmぐらいで切って2~3本立とする
エノキ	ケヤキに準じて整姿をすればよい
エンジュ	自由に大木として眺められるように姿を整える
カエデ	若木の間は多少手を入れて姿を整える程度で、後は自由に生長させる
カシワ	アオギリに準じて整姿をすればよい

樹 種	整 姿 剪 定
カ ツ ラ	ケヤキに準じて整姿をすればよい
ケ ヤ キ	枝先を切らないように心掛けて、枯枝、こみ枝、曲枝等を間引く程度でよい
コ デ マ リ	小作りの場合は細い柔らかい枝を残すようにすればよい。花後株元の強い芽を残して開花済枝を剪定する
コ ブ シ	ケヤキに準じて整姿をすればよい
サ ル ス ベ リ	秋の開花後か、春発芽前に小枝を半分ぐらいの長さに切り、落葉後は、むだ枝等を間引いて姿を整える。なお伸びすぎた横枝は適当な長さに切り込み、密生した小枝は若いうちに間引き、ひこばえや幹の下部から出る芽はなるべく早く摘み取る
シ ダ レ ヤ ナ ギ	秋から冬にかけて姿を乱す枝を切り除き、残す枝も短く切り込んで、春に多くの新しい枝を発生させるようにする
シ ラ カ バ	ケヤキに準じて整姿をすればよい。枝を剪定する代りにサクラと同じく芽をつぶす(芽つぶし)
シ ン ジ ュ	整姿してもすぐに崩れるから自由に伸ばす
ツ タ	つるが30~60 cm ぐらいに伸びたときに摘心を行い、横枝を増やすようにする。落葉後つる先を軽く切り戻す
ド ウ ダ ン ツ ツ ジ	太枝は、梅雨期までに切り込み、細い枝は春、秋に刈り込み、細い枝を増やししながら姿を整える
ト サ ミ ズ キ	古枝を間引いて新しい枝と更新するほかは放任しておいてもよい
ト チ ノ キ	枯枝、むだ枝等を除く程度でよい
ト ネ リ コ	トチノキに準じて整姿をすればよい
ナ ン キ ン ハ ゼ	初めに樹幹をつくってから自然に放任し、枯枝やむだ枝等を除く程度でよい
ニ シ キ ギ	こみ枝やむだ枝等を除いて枝透かしを行い、姿を整える程度でよい
ニ セ ア カ シ ア	枝下を3 m ぐらいにし、それ以上は適宜自由に形をつくっていけばよい
ネ ム ノ キ	姿を整えば以後は早春に枝透かしを行う程度で、放任しておいてもよい
ノ ウ ゼ ン カ ズ ラ	冬に花の終わった枝を整理する程度でよい
ハ ギ	秋落葉後、木立種は枝先だけを、宿根種は地上3~5 cm ぐらいのところから刈り取っておけばよい。60~90 cm ぐらいのときに根元から切り返すと低い姿で花をみることができ
ハ ク モ ク レ ン	若木の間には多少手を入れて姿を整える程度で、後は自由に生長させる。徒長枝、台芽は整理する
ハ ナ ミ ズ キ	枯枝やむだ枝等を除く程度で自然に生育させる
フ ジ	初め横枝を摘んで伸ばし、つるが棚に達して0.7~1 m ぐらいになったときに摘心して横枝を出させる。落葉後枝は2芽残して切り丈夫なつるを出させる。なお、枯枝、むだ枝、徒長枝等は間引いてやる
ブ ラ タ ナ ス	7月頃に新枝を2/3 ぐらいに切り込み、冬に再び切り込んでこみ枝、枯枝等を除いて姿を整える
ボ ケ	花の終わったところ徒長枝やむだ枝等を取り除く程度でよい
ボ プ ラ	自由に生長させ、幹ぶき、枯枝等を取り除く程度でよい
ム ク ノ キ	自然に生長させ、枯枝やむだ枝等を取り除く程度でよい
モ ク レ ン	梅雨期に徒長枝や新しい枝を短く刈り込み、落葉後枯枝や徒長枝等を切り取って姿を整える。なお株元からの若い枝は半数以上切って間引くとよい
モ ミ ジ	冬に立枝やむだ枝等を基部から切り取って枝を透かし、発芽当時の新しい枝を2芽残して摘み取ると細い枝が増えて姿がよくなる。また生育期間中に出るむだ枝は適宜残し刈り込んで枝透かしを行うこともよい
ヤ マ ザ ク ラ	落葉後枯枝はこんだ部分の枝を切る。しかし径3 cm 以上の枝は切らないようにすること。シダレザクラはシダレヤナギに準じて整姿をすればよいが、枝は必ず枝の分れ目から同径または同径以下の枝を切るようにする
ヤ マ ブ キ	古枝を間引いてこみ合った株元を透かし、新しい枝と更新させる。株元は刈り取ったり、途中から切り取ることはしないほうがよい。枝先は場合によっては切り詰めてもよい

樹 種	整 姿 剪 定
ユ キ ヤ ナ ギ	花後、株元の強い芽を残して開花済枝を切り取る。 こみ合った枝や古枝を間引いて透かし、ひこばえは半分以下に取り除き、新しい勢いのよい枝だけとする。秋に太枝を切り込み、枝を発生させて低く仕立てるとよい
ユ リ ノ キ	自由に生長させるのが最良であるが、場所によっては、徒長枝を適当に刈り込み、横枝が水平に出るようにし、冬に短く刈り込んで姿を整える
レ ン ギ ヨ ウ	花の終わった頃に株元の強い根を残して適宜枝を切って整理し6月頃に枝透かしをする程度でよい

(4) 特殊樹・竹類 (15種類)

樹 種	整 姿 剪 定
イ ト ラ ン	枯葉と花後に花梗を切り取る程度でよい
オ カ メ ザ サ	古桿を切り取って新桿だけ残す。低く仕立てる場合は、葉のあるところから高低をつけて切り取るとうよい
カ ナ リ ー ヤ シ	ピロウに準じて整姿をすればよい
ク マ ザ サ	中春に古桿を根元から刈り取る。大きくなりすぎたものは春の彼岸に根元から刈り取って新しく発生させる
コ コ ス ヤ タ イ	ピロウに準じて整姿をすればよい
シ ユ ロ チ ク	古株で中央に丈の高い桿があれば切り除いて全体の姿を整える。古葉や損傷した葉は早く取り除いてやる
ソ テ ツ	古葉は新葉が発生しはじめると同時に切り去る
ト ウ ジ ユ ロ	枯葉は幹際から早く切り取るが、古葉はできるだけ残しておいたほうがよい
ナ リ ヒ ラ ダ ケ	キンメイタクに準じて整姿をすればよい。枝の透かし方は長すぎるものは長短をつけて適宜切り詰めればよい
ニ オ イ シ ユ ロ ラ ン	ピロウに準じて整姿をすればよい
バ シ ヨ ウ	生育中じゃまになる葉を切り取る程度でよい
ピ ロ ウ	古葉を切り去る程度でよい
モ ウ ソ ウ チ ク	全体に低く仕立てるのが普通で、筍が伸びてきたら適当な高さで切って切口をビニール等で覆っておき、4～5年生の桿は毎年10月頃に1～2本ずつ間引いて株間を透かす。小枝は立枝を切る程度でよい
リ ユ ウ ゼ ツ ラ ン	ほとんど手入れはいらない。みにくくなった古葉を切り取る程度でよい
ワ シ ン ト ン ヤ シ	ピロウに準じて整姿をすればよい

出典:『緑化・植栽マニュアル』中島宏、財団法人経済調査会、H19

3.3. 資料-3 花芽分化期

花芽分化の時期 (作成 1992 年中島)

樹 種	分 化 期	花芽の位置	開 花 期
ア ジ サ イ	10月上旬~10月下旬	頂 芽	6月上旬~7月中旬
ウ	7月上旬~8月中旬	側 芽	1月中旬~3月中旬
カ イ ド ウ	7月中旬	側 芽	4月上旬~4月下旬
ク チ ナ シ	7月中旬~9月上旬	頂 芽	5月下旬~7月上旬
コ デ マ リ	9月上旬~10月下旬	側 芽	4月下旬~5月上旬
サ ク ラ	6月下旬~8月上旬	側 芽	3月下旬~4月下旬
ザ ク ロ	4月中旬	頂 芽・側 芽	5月下旬~6月中旬
サ ザ シ カ	6月中旬~6月下旬	頂 芽	11月上旬~1月中旬
サ ツ キ	6月下旬~8月中旬	頂 芽	4月下旬~6月中旬
サ ル ス ベ リ	4月下旬	頂 芽	8月上旬~9月下旬
サ シ ユ ユ	6月上旬	側 芽	2月下旬~4月上旬
シ ャ ク ナ ゲ	6月上旬~6月中旬	頂 芽	5月上旬~6月中旬
ジ ン チ ョ ウ ゲ	7月上旬	頂 芽	3月中旬~4月下旬
ツ ツ ジ	6月中旬~8月中旬	頂 芽	4月上旬~6月中旬
ツ バ キ	6月下旬~7月上旬	頂 芽	11月中旬~4月下旬
ド ウ ダ ン ツ ツ ジ	8月上旬~8月中旬	頂 芽・側 芽	3月中旬~4月下旬
ニ ワ ウ メ	8月中旬	側 芽	3月下旬~4月下旬
ハ ク チ ョ ウ ゲ	3月下旬~4月上旬	頂 芽	5月上旬~7月上旬
ハ ク モ ク レ ン	5月上旬~5月中旬	頂 芽	3月中旬~4月上旬
ハ ナ ズ オ ウ	7月上旬	側 芽	4月上旬~5月下旬
フ	6月中旬~6月下旬	頂 部 の 側 芽	4月下旬~5月下旬
ボ	8月下旬~9月上旬	側 芽	3月下旬~4月下旬
ボ タ ン	7月下旬~8月下旬	頂 芽	4月下旬~5月下旬
ミ ズ キ	6月中旬	側 芽	4月中旬~5月中旬
ム ク ゲ	5月下旬	側 芽	7月上旬~9月中旬
モ ク セ イ	5月中旬~6月中旬	側 芽	9月下旬~10月下旬
モ	8月上旬~8月中旬	側 芽	3月下旬~4月中旬
ユ キ ヤ ナ ギ	9月上旬~10月上旬	側 芽	3月下旬~4月中旬
ラ イ ラ ッ ク	7月中旬~8月上旬	頂 部 の 側 芽	4月中旬~5月中旬
レ ン ギ ョ ウ	8月上旬~8月下旬	頂 部 の 側 芽	3月中旬~4月下旬

出典:『緑化・植栽マニュアル』中島宏、財団法人経済調査会、H19